

説 教

第3アドベント（待降節）礼拝 北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2019年12月15日（日）

主 題：「おいでになるはずのお方」

—第3アドベント—

テキスト：マタイ 11章 1-6節

はじめに

・私たちは今日、第3アドベント（待降節）聖日を迎えました。クリスマスは、もうそこまで近づいてきました。

- ① 毎朝早くですが、NHK 総合テレビで「ストップ詐欺被害、私は黙されない」という短い番組が報道されています。検察庁の調べでは、なんと95%の高齢者が「オレオレ詐欺」で騙されているそうです。これは数年前から、日本で大きな問題となっている「オレオレ詐欺」事件のことです。



・息子や孫の名前を語り電話して、お金をだまし取る手法は悪徳です。日本では1日に、約1億円ものお金が「オレオレ詐欺事件」で失われているといわれます。最近では隣国中国、韓国、台湾にまで、この「オレオレ詐欺事件」は飛び火しているそうです。歯止めがききません。まことに不名誉なことでもあります。

- ② また、最近では小学校の女兒が SNS で栃木県の男性（35歳）によって、誘拐されるという事件が起きました。幸いにも、こちらの方は被害者の女兒は無事に保護されました。詳細は不明ですが、女兒は SNS で流れた男性の甘い言葉に騙されたようです。なんと、その男性宅には15歳の中学生が、同じく SNS で騙されて誘拐されていたこともわかりました。

・皆さん。私たちは安易に、他人を信用できない時代に生きています。人間というものは、迷いの中に置かれると、判断を誤ることがあります。弱い者ですね。

・今日は第3アドベント聖日です。3番目のローソクは「光（あかり）」を意味します。今の時代、人を信じるのが難しくなり、先に光が見えないような暗い時代に入りつつあります。バプテスマのヨハネも、同じように不安を抱えていました。イエスは、そのバプテスマのヨハネに言われました。

11:6 「わたしにつまずかない人は幸いである。」

なぜイエスは、バプテスマのヨハネに、こう言われたのでしょうか？ 2点。

大切なポイント

1. イエス・キリストはだれでしょうか

1) イエス・キリスト マタイ福音書

3:11 私の後に来られる方は私よりも力のある方です。私には、その方の履き物を脱がせて差し上げる資格もありません。

ヨハネの福音書には次のように書かれています。

1:29 その翌日、ヨハネは自分の方にイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の子羊。」

1:30 『私の後に一人の人が来られます。その方は私にまさる方です。私より先におられたからです』と私が言ったのは、この方のことです。

1:31 私自身もこの方を知りませんでした。しかし、私が来て水でバプテスマを授けているのは、この方がイスラエルに明らかにされるためです。」

- 皆さん。ヨハネはイエスを「世の罪を取り除く神の小羊」と呼びました。しかし、現実の自分は獄の中でした。当時の大多数に人たちの理解では、メシアが来られたら「メシア的王国」が実現するはずでした。しかし、メシア的王国が成就する気配は一向にありませんでした。それどころか、自分は囚われたままでした・・・。

2) ヨハネの疑問

- ところで、メシア来臨前の最後の預言者と呼ばれる、バプテスマのヨハネは、獄中にいましたがイエスは来たるべきメシアと信じていました。しかし、現実の彼は獄の中でした。ヨハネは不安に思い、弟子をイエスの元へ送り次のように尋ねました。マタイ福音書

11:3 イエスにこう言い送った。「おいでになるはずの方はあなたですか。それとも、別の方を待つべきでしょうか。」

これは、イエスはイスラエルが求めていたメシアか否かという問いでした。

- ヨハネは正直いって、分からなかったからです。イエスはこう答えました。

11:4 イエスは彼らに答えられた。「あなたがたは行って、自分たちが見たり聞いたりしていることをヨハネに伝えなさい。」

11:5 目の見えない者たちが見、足の不自由な者たちが歩き、ツァラアトに冒された者たちがきよめられ、耳の聞こえない者たちが聞き、死人たちが生き返り、貧しい者たちに福音が伝えられています。

11:6 だれでも、わたしにつまずかない者は幸いです。」

- ・彼はなぜ確信がなかったのでしょうか。彼ほどの人物でも、確信がありませんでした。だからイエスは、「**だれでも、わたしにつまずかない者は幸いです。**」(11:6)と言われました。ところで、
- ・あなたは今、イエスにどんな期待を持っているのでしょうか。人を信じることがむづかしい時代で、暗黒雲が立ち込めるような社会で、信じられるものが見当たりません。あるいは、期待できるようなものが見当たりません。どこに光を求めたら良いのでしょうか。
- ・あるいは、あなたはイエスに期待したが、何の良いこともないと思っているかもしれません。また、自分が期待するように仕事も進まないと思っているかもしれません。あなたは、イエスにつまずいてはいないのでしょうか。
- ・聖書では神に問い尋ねた人は多くいます。
旧約聖書を開くと、モーセ、エリヤ、ヨブ、エレミヤ、ダニエルなど、彼らは何度も神に尋ねました。なぜなら、自分と神との間にギャップがあったからです。バプテスマのヨハネも然りでした。このように振り返ってみると、神に問い尋ねた人は多くいます。
- ・彼らは何度も神に尋ねました。なぜなら、自分と神との間にギャップがあったからです。バプテスマのヨハネも然りでした。あなたは、いかがでしょうか。もし、仮にイエスとの間でギャップがあり、「つまずき」を覚えているならば、同じようにイエスに尋ねてみせんか？

2. イエス・キリストは応答された

1) イエスのメシア性

11:4 イエスは彼らに答えられた。「あなたがたは行って、自分たちが見たり聞いたりしていることをヨハネに伝えなさい。

11:5 目の見えない者たちが見、足の不自由な者たちが歩き、ツアラアトに冒された者たちがきよめられ、耳の聞こえない者たちが聞き、死人たちが生き返り、貧しい者たちに福音が伝えられています。

11:6 **だれでも、わたしにつまずかない者は幸いです。**

- ・イエスのこの回答は、旧約聖書イザヤ35：5－6の預言です。

ここには35章6節のことばは引用されていませんから、読んでみます。

35:6 そのとき、足の萎えた者は鹿のように飛び跳ね、口のきけない者の舌は喜び歌う。荒野に水が湧き出し、荒れ地に川が流れるからだ。

すなわち、これらのみことばを通して、イエスはご自分がメシアであることを主張されました。そして、みことばが示すことに目を留めなさい、と言

われました。

11:4 イエスは彼らに答えられた。「あなたがたは行って、自分たちが見たり聞いたりしていることをヨハネに伝えなさい。

- ・イザヤが預言したみことばの成就を聞いたり、見たりしたら、そのように伝えなさいと言われました。ここで、次のことを覚えたいと思います。

2) 信仰の二つのステップ

- ・イエスが復活された後、イエスはトマスの前に姿を現されました。彼はイエスの復活を信じようとしなかった男でした。そしてこう言いました。

ヨハネの福音書

20:25 そこで、ほかの弟子たちは彼に「私たちは主を見た」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見て、釘の跡に指を入れ、その脇腹に手を入れてみなければ、決して信じません」と言った。

20:29 イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」

- ・皆さん。信仰とは2つのことが考えられます。

① 見て信じる信仰

② 見ないで信じる信仰

⇒イエスはみことばを引用し、「見ないで信じる信仰」教えられました。バプテスマのヨハネにも、同じように求められました。

「信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」
ヘブル人への手紙 11:1

- ・神は、あなたにも同じように、「見ないで信じる信仰」を求めておられるのではないのでしょうか。トマスに求められた信仰、他の弟子たちに求められた信仰、そしてバプテスマのヨハネに求められた信仰、それらは

⇒ 「見ないで信じる信仰」

これは、今の時代にも共通し、イエスは問われていられます。

3) 疑問の中での応答

- ・先ず覚えなければならない点は、バプテスマのヨハネはナジル人であったことです。30年間、荒野の生活で野蜜を食べて生活し、その生活は質素で、主に出会うための「きよめの生活」に集中していました。しかも、ナジル人の主な仕事は、神のみことばを学び暗唱することでした。きっと彼は、イザヤ書のほとんどを暗唱していたに違いありません。
- ・ヨハネが、イエスを来たるべきお方（メシア）と信じられたのは、彼がナ

ジル人で旧約聖書のみことばを貯えていたからです。

- では皆さん。私たちも人生で、疑問を持つことが多々あります。試練を迎える時もあります。不信仰の時もあります。すでに申し上げたように、不安に陥る理由は、私たちの考え（計画）と神のそれとの間にギャップがあるからです。
- 今はイエスを肉の目で見ることができない時代です。しかし、神の書であるみことばを通して、神を信頼することができるのです。これが「見ないで信じる信仰」です。見ないで信じる信仰の鍵はここに 있습니다。
- 人間は神のようではありません。不完全な人間には、不明なことが多くあります。ですから、「なぜ？」と問いたくなります。しかし、その「なぜ？」という思いが大切です。あなたは、「なぜ？」というクエスチョンをどこへ持って行かれるでしょうか。神のもとに持って行ってください。
- イザヤは次のように語りました。

55:9 天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。 イザヤ

- イエスは、疑問を投げかけたバプテスマのヨハネに対し、みことば（旧約聖書）に目を留めることを伝えました。みことばこそ、人生の疑問に対し、回答を与える神の書です。ですから、聖書のみことばを知ることは非常に大切です。
- あなたが人生の試練に出会う時、不信仰に陥った時、あなたが重要な決断を迫られる時、みことばの貯えが大きな助けとなります。

{例 話}

- 私の信仰の友人であった Jakob Esau 世界巡回伝道師のことを思い出します。彼はドイツ系ロシア人で、牧師であった彼は信仰のためにシベリヤの強制労働収容所へ送られました。厳しい極寒の地で、彼は迫害を受け苦難の道を歩まれました。
- 彼はある時、次のように語ってくれました。独房に3ヶ月入れられた時のことでした。非常に狭い部屋で身体を横みもできず、一日中人にも会わず、会話もできない状況下に置かれたとき、気が狂いそうになったと言われました。その時、看守はエソウ師に「お前の妻も、子どもも、教会の人々も皆お前を捨ててしまったよ。」、と言いました。
- 彼は失意の底に落ちてしまいました。その時、彼は聖書のみことばを思い出した、と語れました。
- ヨハネの福音書
14:18 わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。ヨハネ
- マタイの福音書6章

6:29 しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも装っていませんでした。

6:30 今日あっても明日は炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこのように装ってくださるのなら、あなたがたには、もっと良くして下さらないでしょうか。信仰の薄い人たちよ。

- ・すると彼は独房で喜びが沸き上がり、口からは賛美の声が出てきたと言いました。まさしく、あのパウロとシラスが獄中で、神を賛美したこと事実ですと、言われました。1人獄中にいたエソウ師を励ましたのは、聖書のみことばでした。

- ・いかがでしょうか？ あなたは、どのような信仰をお持ちでしょうか。クリスマスは、「世界の光」であるイエスがお生まれになった日です。私たちは今、イエス・キリストを見ることはありません。しかし、聖書を通してイエス・キリストに出会うことができます。それが、見ないで信じる信仰です。メッセージを、まとめてみよう！

ま と め

テーマ：「こられるはずのお方は？」

- ・今日は第3アドベント聖日です。3番目のローソクは「光」を意味します。どんなに社会が暗くても、光の方がはるかに強いのです。イエスは「わたしは世界の光です。」と言われました。光であるお方が、私たちを先導してくださり、内に住んでくださいます。その光であるお方が、御生れになったのがクリスマスです。なんという幸いではありませんか。
- ・暗い時代、人のことばを信じるのが難しい時代、私たちはどうすればよいでしょうか。バプテスマのヨハネから、私たちは今日大切なことを学びました。それは、たとえ見えなくても、理解できなくても、受け止めることが難しくても、神のみことばと信頼する信仰です。

「信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」
ヘブル人への手紙 11:1

- ・世界の「光」であるお方がクリスマスに来られたのですから、私たちは素直な心を持って、聖書が語るみことばを信頼し受け止めようではありませんか。

* God bless you

